

第1回有識者会議追加提出意見等

項目	委員	ご意見
1)『「くらし」を支える』に関して	新井委員	○第一期から第五期の対策が施された結果、地域にくらすみなさんが満足できている部分と、まだまだ満足できていない部分(わがままではないところの)を整理してからあらためて意見を述べたい。これから不足してくるであろう部分も予測できているのであれば、それを実感をもって理解してからあらためて提案したい。
2)『「なりわい」を守り、生み出す』に関して	新井委員	<p>① 振興山村地域にすでにある、群馬県全体にすでにある、本当にいいもの(特産品、芸術品…)を、自分たちの目と耳と足をつかって発掘しつづけ、買い手のたくさんいる場所で売るしくみをつくる。売る場所の環境を素敵に整える。</p> <p>② 発掘できた「本当にいいもの」には、「ものがたり(紹介文)」を付して市場に送り出す。地域ではぐくまれてきた「なりわい」としての技術や芸術に、地域の「ものがたり」を付す仕事を創出する。その「ものがたり」には、歴史、民俗、方言なども関与するはず。</p> <p>③ ①と②を統合すると、群馬の振興山村地域を一体化し、あるいは群馬県全体を一体化し、すでにそこにある「なりわい」としての技術や芸術を、総合的に売り出すことをプロデュースする仕事が考えられようか。「ものがたり」を付すときには、群馬県出身あるいは在住の作家、群馬県に訪れた作家、身の映画監督などとの連携もあり得る。県立の美術館や文学館に蓄積されている情報を大いに活用する視点ももつべき。</p> <p>④ インターネットを活用した情報の発信を請け負う仕事。イベントを開催しているときには、その映像を同時配信するとか。地域の小さなお祭りの神楽、獅子舞などを、同時配信するとか。</p>
3)『「ひと」を育てる』に関して	新井委員	<p>① 「先人の築いた知恵と工夫」を知るしくみ、調べるしくみ、あらためて発見するしくみを創出する。振興山村地域、群馬県をみんなで「カガヤク(群馬県方言:集中して探すという意味愛の方言)」という発想でしくみづくりができないか。たとえば、群馬の振興山村地域全体を博物館みたくて、大学生のフィールドワーク(歴史、地理、民俗、方言、地域政策など)の場とすることを積極的にすすめる。大学のゼミ合宿誘致、研究発表会の開催など。</p> <p>② 群馬の振興山村地域を一体化し、あるいは群馬県を一体化し、県外や国外の大学に進学する学生に、たとえば「ぐんまやまと大使」の称号を与えて積極的に送り出す。行った先の大学のイベント等で、群馬の特産品を必要とする場合には、相談に乗れるような窓口を作る。</p> <p>③ 振興山村地域、群馬県で生まれ育った、あるいはそこにすまう芸術家(プロ、アマは問わず)の作品展、音楽会などを積極的に勧誘し、これまでに整備されてきている施設を利用し、小規模でもいいから、開催する。</p>

項目	委員	ご意見
4)その他	新井委員	<p>①「振興山村地域＝支援が必要な地域、振興策が必要な地域、なにもないない地域」というとらえ方から解放され、「振興山村地域＝先人の築いた知恵と工夫にあふれるやまさと地域、なんでもあるあるやまさと地域」という発想に完全に切りかえて方針の策定ができませんか。方針の策定に関わる私たちが、完全に解放されれば、山振法の文言に新しく入った「基本理念」にそぐうことになるはずだと考えるからです。</p> <p>②「振興山村地域」すなわち「なんでもあるあるやまさと地域」には、次のような人が暮らしていると考えられます。</p> <p>A そこにずっと継続して住み続ける人 B そこに新しく入ってきて住む人 C そこから出て外の地域に住む人 D そこから外に出たけれどまたそこに戻って住む人</p> <p>Cにあたる人を無理に引き止めようとするのはせず、むしろ認めるという方向性も考えておきたいと思っています。いずれDとなることをも期待して。</p>
	長谷川委員	<p>基本的な事項。人口については、総合戦略で示す予定等を含め、目標は立てないのか？積極的なものとはしないのか？</p>
5)第2回有識者会議の検討テーマ	新井委員	<p>① 山振法施行以来の成果を、もう少し実感をもって理解できるように説明を簡単にしてくださると助かります。すなわち、「藤岡市でくらす生活者」としての私が、「六合、片品、神流町に方言調査に出かけるフィールドワーカー」としての私が、実感をもって理解できるように教えてください。ちなみに、私は昭和44年に藤岡市で生まれた生え抜きです。第二期対策以降の成果が具体的に説明されると、実感がわきます。さらに、私が六合、片品、神流町で方言調査をはじめたのは平成1年です。第三期対策以降の成果が具体的に説明されると、実感がわきます。</p> <p>②「第一期から第五期にわたる山振計画の計画・実績額」の数字の推移をどのように理解したらよいかを教えてください。</p> <p>補足：第1回目の会議、懇親会で、委員のみなさんや事務局のみなさんお話ししました。そして、以上に記したように、いろいろと考えをめぐらしてきました。生活者の私、方言研究者の私、この会議の委員である私として考えたつもりです。その中で、県内全域で人口減少のすすんでいる現在にあって、「自立」とは何か、「振興山村地域」をどのような地域ととらえるか、たとえ抽象的なとらえ方でもいいから、私たちの基本的な態度を決めたい、というか、共通理解をしたいと思いますようになりました。人はそんなに簡単には動かない、が、しかし、かなり原始的で素朴な理由で動いているような気がして仕方ありません。</p>
	星野委員	<p>過疎や山村というと、さびれて活気のない寂しい地域をイメージしている人が多いと思う。ですが、明るくて、元気で、仲良く、熱くて芯を持ち暮らしている人も多く、日本の心、大切な伝統を継いでいる。</p> <p>住んでいる人自らが山村の価値を知り、また都会の人も役割、価値を認識することが大切と思う。</p> <p>今回は、ぜひこれからの山村の役割、価値について、そして、それを具体化して、財源が獲得出来るところまで話ができればと思います。</p>